



KAWASAKI CITY

川崎市上下水道局  
サービス推進部サービス推進課  
〒210-8577 川崎市川崎区宮本町1  
☎044-200-3097 FAX044-200-3996

○貯水状況 (H23.12.1現在)

相模湖 ..... 74%  
津久井湖 ..... 95%  
丹沢湖 ..... 96%  
宮ヶ瀬湖 ..... 92%

かわさきの

# 上下水道

## No.6

平成23年12月発行

### Contents

- 01 ◆ おめでとう!!  
全国小・中学生作品コンクール
- 02 ◆ 平成22年度決算
- 03 ◆ 水道水の放射能測定  
◆ 作品紹介
- 04 ◆ 入江崎余熱利用プール  
休館のお知らせ  
◆ 水道管も冬じたく  
◆ お知らせ  
◆ 作品紹介  
◆ プレゼントクイズ

■ 広報紙「かわさきの上下水道」は、  
年4回(5、8、12、3月)発行しています。  
次回の発行は、3月20日頃の予定です。



か  
ん  
な  
な

### 作文の部

特選 厚生労働大臣賞

「資源としての水」  
橋中学校  
堀 未貴子さん

入選

「わたしと水」  
宮崎台小学校  
岡村 陽香さん

「たいせつなお水」  
西野川小学校  
伊藤 萌花さん

## おめでとう!! 全国小・中学生 作品コンクール

日本水道協会などの主催により「第53回水道週間懸賞募集」が行われ、全国各地から約1万点の応募がありました。川崎市からは「第53回川崎市小・中学生作品コンクール」に入選した作品107点を応募したところ、作文の部で特選1点・入選2点を受賞しました。



橋中学校(応募当時)  
堀 美貴子さん

### 特選に選ばれて

平成22年は記録的なゲリラ豪雨による多くの水害で、水は何か悪者のように感じると感じる年でしたが、世界では水の枯渇に苦しむ国が多い中で、こんなにもおいしい水が飲めることを誇りに、水を資源として考えては、という内容で「資源としての水」という作文を書きました。今年東日本大震災による津波で、さらに水による災害の怖さを見せつけられました。私の祖母は宮城県に住んでいて、津波の被害はありませんでしたが、地震による断水で大変な思いをしたそうです。川崎市に住む私は断水こそ経験しませんが、スーパーでペットボトルの水がひとり1点といった状況を見て少しだけ水不足を実感しました。

今回の受賞で改めて水について考えてみましたが、資源としてのおいしい水があることを誇りに思うと同時に、蛇口をひねると水が飲めることへの感謝の気持ちを忘れてはいけないと本当に感じました。

川崎市からの  
受賞は  
11年ぶり!!

### 作文の部 中学生

資源としての水

橋中学校 三年七組 堀 未貴子

# 特選

# 厚生労働大臣賞

平成22年の今年には記録的な集中豪雨による水害の多い年である。天候の急変によるゲリラ豪雨などによる被害は甚大なものであった。川の急激な増水などで家や車を流されたり、土砂崩れにより生命を奪われた人もいた。そういう意味では、今年の雨つまり水は悪者になつて、こころな気がする。

どちらかという大雨による水害に悩まされるのが多い日本と比べてみると、世界では水不足に悩まされていいる国や地域のほうがたくさんあるようだ。蛇口を捻れば水が出てくるのがあたりまえの生活を送っている私には、水不足で苦しむということがなかなか実感できなかった。インターネットで調べてみると、地球上の水のうち約97%が海水で残りの3%が淡水であることがわかった。更にその3%のうち9割が北極と南極の氷であった。この数字をみて私は初めて水がいかに貴重なものであるかということがイメージできなくなった。

ところで、私はハワイとグアムに旅行に行つたことがあるが、親に2回とも注意されたことがある。それは、「水道の水は飲んではいけない」ということだ。飲めなくはないがお腹をこわす場合がわりから、買って来たミネラルウォーターを飲んだという。ことだった。私は不思議に感じたが、水道水を飲む国のほうが少ないのはなぜか親が話してくれた。調べてみると水道水の飲める国というのは、カナダ・スイス・オーストリア・ノルウェー・スウェーデン・フィンランドと、た国々で、程々豊富で大自然のき

れりな風景が思ひ浮かぶ国々であった。そんな中で、おいしい水が飲める国々のランキングの1位に日本がなつていた。あまり水について意識したことがなかったが、この事を知り誇らしい気持ちになった。

日本は、石油などの資源が乏しく食料自給率も低い国で、科学や工業技術にささえられた国だとばかり思っていたが、水という立派な資源があるではないか。水の枯渇に苦しんでいる国が多い中で、きれいでおいしい水が豊富にある日本は、もつと水を石油や金などと同じように大切にしなければならぬのではないだろうか。人間の身体の水分量は成人男性で約60%、女性で約55%といわれ、実に身体半分以上が水なのである。直接生命に関わるという意味では、飲料水がいかに大切であるかということも言うまでもないと思う。

前に、テレビの番組で世界の国が日本のおいしり水に目をつけて採水権を取得しようとする動きがあるという話になった。もつと資源としての水を意識したほうがよいのではないだろうか。ミネラルウォーターの中にはがソリソリの価格よりも高いものが売られていたりする。これはもう立派な資源である。どちらかという日本では環境問題で語りられることが多いが、資源、つまりビジネスとして水を考えるのであれば、今は違つた取り組みが出てくるのではないだろうか。出発点は違つてもしれないが、結果的には、環境問題にも大きく貢献できるような気がする。

このおいしい水が飲めることをいつまでも誇れるようにするためには、何をすべきなのかをみんなが考え、実践する社会になれば良いと思うし、私も少しでもその力になれば良いと思う。

入賞作品は、  
上下水道局ホームページ  
「こどものページ」で  
公開中です。